

閉会の辞

九州大学温研同窓会 会長 矢永 尚士

本日は、九州大学病院別府病院開院にあたり、ご出席頂き、また貴重な御講演を賜り誠にありがとうございました。

思えば、九州大学温泉治療学研究所は、昭和6年に発足し、初代所長は、刺激伝導系の発見で有名な田原淳先生でした。その後、時代の要請により幾多の変遷を経て、今回九州大学病院別府病院として新しく発足することになりました。ここまでに至る幾多の先生方のご努力対しまして、まずは敬意を表したいと思います。これから地域により貢献できるように内科、外科に加えて放射線科、整形外科増設されました。九州大学総長 有川節夫先生、九州大学病院長 久保千春先生から新しい病院に対して心強く、暖かいお言葉を頂きました。大学の臨床は、地域だけでなく、世界に通用する臨床、そして研究が求められていると思われます。生体防御医学研究所と別組織になることは、研究の面で支障があるのではと心配しておりましたが、九州大学生体防御医学研究所長の谷憲三朗先生からこれからも全面的に協力するとのお言葉があり安心しました。

九州大学大学院医学研究院 整形外科 研究分野教授の岩本幸英先生、臨床放射線科学分野教授の本田浩先生よりそれぞれ「整形外科医療の進歩」「画像医療の進歩」のお話を頂き診断と治療の進歩に関する目もさめるようなお話に学生時代に戻ったような感激を覚えました。すでに両科の診療は、地域の多くの皆様に喜ばれていると聞き感謝しているところでございます。

九州大学名誉教授の杉町圭蔵先生は「九大別府病院の発展に向けての提言 - 外科の立場から -」のお話は、大学病院の臨床、研究、経営、責任について深く考えさせられるお話でした。「九大温研」の歴史、先生方の業績、貢献についても触れて頂き感謝しました。

九州大学名誉教授 国立国際医療センター名誉総長の笹月健彦先生は、「多様性と多型性、そして個別化医療」について遺伝子、HLA の立場から医学、医療について本質的なお話を頂き研究、臨床の実践に際し大変有益なお話をされました。

お忙しいところ座長の労をとられました、久保千春先生、森正樹先生、谷憲三朗先生に厚く御礼申し上げます。

別府はすぐれた保養地ですし、研究に際し深く思索を行うのに適していると思われ
ます。

九州大学だけでなく全国的に利用して頂ければと思います。

九州大学、九州大学病院、別府病院の発展を心よりお祈りし私の閉会の辞とさせて
いただきます。本日は、本当にありがとうございました。